

## 第1回町田市子どもの居場所づくり懇談会議事録（要旨）

日時	2008年8月22日 9:30～12:00
場所	町田市役所森野分庁舎2階第三会議室
出席者	長野委員、脇委員、藺田委員、宮島委員、近藤委員、盛永委員、舟山委員、上田委員、福田委員、萩原委員、岩崎委員、安食委員、奥委員、上原委員、石阪市長、浅野子ども生活部長
傍聴者	3名

### 議題1 委嘱状交付

石阪市長より各委員に委嘱状の交付を行う。

### 議題2 市長挨拶

市長：子どもの居場所について検討していく上で、問題となる点は2つあると思う。1つは友達との関係。子どもにとって友達との関係が大事だが、最近うまくコミュニケーションがとれない子どもが増えている。そこをどうしようか、ということが問題。もう1つは最近のことであるが、子どもの安全がクローズアップされており、そのことである。保護者の不安感も大きくなってきているのでその点をどう解決していくか、という問題がある。

最近ではゲームで遊ぶ子どもが増えてきており、自宅にいてもゲームをするだけ、テレビを見るだけということでは子どもの発達によくない。家庭だけが子どもの居場所ということでは完結しないのではないか。そういう意味でも居場所が必要である。

横浜市港北区でのサッカーチームに入っている子どものお母さんの話だが、子どもがサッカーにいつているときは安心であるとのこと。そのサッカーチームのような安全を守るという役割も居場所には必要となるのだと思う。

具体的な居場所をどう作っていくか、という話は話し合いの中ででてきてくれればよい。そのために地域ごとでの会議を開き、その中で出てきた話を懇談会の中で集約し、更にそれを地域に持ち帰って議論していただく。その中で自分のところで居場所を運営します、というような意見がでてきてもいいのかな、と思う。委員の方々にはその地域会議をコーディネートしていき、地域の議論をまとめていくという役割も担っていただければありがたい。

そこでまとめたものをこの場で発表していく、そういう場になればよいと思っている。今までになかったようなものなので難しいとは思いますが、市長として方向付けをしようということは考えていないので、自由にやっていただければと思う。

### 議題3 懇談会開催趣旨説明

事務局の田中児童青少年課長より、資料を元に懇談会開催趣旨を説明。

市としては途中で中間報告をできるだけ予算に反映させられるように対応していく。

### 議題4 委員自己紹介

各委員、簡単な自己紹介を行う。

### 議題5 座長及び副座長選出

事務局： 設置要項第4の規定により、座長は長野正委員、副座長は協恵委員にお願いすることで提案させていただく。

### 議題6 子どもの居場所に関する現状について

事務局の田中児童青少年課長より、昨年の12月までに町田市子どもの居場所の在り方検討委員会がまとめた報告書を元に説明。

### 議題7 フリートーク「子どもの居場所について感じていること」

座長： 子どもの居場所について感じていることを発言願いたい。それによって次回以降の議論の方向性も見えてくるのではないか、と思う。名簿順に各委員3分30秒以内でお願いする。

委員： 私は小野路で活動しているものだが、感じていることが3つある。

まずは、子どもの居場所は大人の居場所とも関わっているということ。昔は地域社会の中で大人が子どもを社会にはめこんでいく仕組みがあったが、今ではほとんど失われてしまった。それに代わるようなものを作っていけないか、ということ。

もう1つ、昔は子どもがもっと自由であり、子どもの自立性があった。今は、遊びも勉強も大人が干渉し過ぎている。子どもの居場所を考えると子どもの自立をどう守っていくか、という

視点が必要となると思う。

最後に学校をもっと活用しなければならないということ。学校は地域の重要な施設であるのだから、上手に使っていききたい。この点も議論のテーマとなるのかなと思う。

時間が少し余っているのもう一点、今は子どもの自然との関わりが少ない。町田の北部には豊かな自然がのこっているので、そこを利用した情操教育ができればよいと思う。

委員： 私は市内に24ある青少年健全育成地区委員会の代表として参加しているが、個人の意見として発言する。

私の属する地区委員会は市の中心で商店街を抱えている地域であるが、その割には徒歩7～8分で公園があり、近くに市民の森もあるので、自然はあるのだが子ども達が日頃どうしているかという家にとじこもっており、自然に関わることは少ない。もっと外へ出て遊び、家の中では勉強をする、という状況が望ましい。

しかし、委員会としても個々の家庭の内部まではなかなか踏み込めないところである。

会としては活発な活動をしており、そこに関わる子ども達は、駅周辺で環境が必ずしもよくはない地域と思うが、その割には事件等もないし保護者との人間関係も良いと思う。

先ほどサッカーチームの話があったが、サッカーチームに子どもを預ければ安心でよいという保護者の安易な気持ちを感じていた。

居場所を考える上でもあまりここで遊べという風に押し付け過ぎてもいけない。自主性が損なわれてしまう。子ども達が子ども同士のつながりの中で色々なことを学んでいける、という風になつていくとよい。

委員： 私は市内20の小学校が加盟している市P協の代表としてきている。市P協は月に1回、2時間程度の会議を開いているが、それくらいの時間だと新しいことを議題として話し合うのが難しい。

その中で6月の会議において学校開放についての話し合いを行った。市内各地から集まってきているので、地域ごとに考え方の差がある。特に何もしていないところからPTAが当番で見回りを行っているようなところまで様々な地域がある。この考え方がよくてこの考え方は悪い、というものでもない。要は地域の特性

を活かしていけるかどうかであると思う。

私自身は緑や公園が多いところに住んでいるので、周囲に遊べる場も多く、現状では特に学校開放が必要とは思わない。とはいえ、最近是不審者情報も多くなり、世の中も危なくなってきているので、子どもの居場所を作ることは大切だと思う。

委員： 私は町田市町内会・自治会連合会の代表としてきている。会の一番の目標は親睦である。

最近の子どもは塾通いや習い事が多く、子ども同士で遊ぶ時間が少ないように感じる。また、子どもだけで安心して遊べるような場所も少ない。私が子育て中の頃はカブトムシを捕まえる方法を子ども達の間で伝えあうなど、子ども同士の連携があった。

また、最近子どもでも携帯電話を持っており、それが安全につながっている部分もあるだろうが、子どもの動きを親が把握することが難しくなっている。

私達は地域で夏祭りや秋祭りを開いているが、そこで子どもみこし等子どもの出番を作ることによって子どもにつられて親が出てきて、地域の人々と関わる中で親睦の輪が広がっていき目標が達成されるのかな、と思う。そういうものが毎日あればそれが子どもの居場所ということにつながっていくのではないかと思う。

委員： 私は主任児童委員として学校訪問等を行っている。

今は子育てがうまくできない家庭が多くなってきている。例えば、両親が働いているのに学童にも通わせていないような場合があるが、そういう家庭の子どもの居場所がない。地区によっては教育力の低下が顕著な地区があり、家庭訪問をした際に見守りを依頼されるようなケースもある。こういったケースでは非行問題につながる場合もある。

私は地域でレコパンという子ども教室にスタッフとしてかかわっているが、今年から週5日開くようにした。これには地域の方も参加してもらっている。最近子どもの塾通いが多いという話であるが、都営住宅の場合だとそれほど多くはない。そうすると特に高学年の子どもの居場所がなくなってしまう。地域の特性によっては学校を開放しているところもあるが、大体は公園、自宅、友達の家等にいることになる。

学童にいつている子どもにしても子ども自身の希望としては学

童の中だけではなく、広く色々な地域の子ともと遊びたいという希望が一番多い。そういった子ども達の要望もとらえながら、広く子どもが集まるような居場所を作り、自分が育った頃のよさを取り込んでいければよいと思う。

委員： 私は学童クラブの父母連絡協議会の代表として出席している。学童がなくなってしまうと困る。4年生以上の子どもも学童を利用させて欲しい、という要望を市に出しているがなかなか難しいという話である。

学童にいつている子どもは0歳のときから保育園ということも多く、そういう子どもだと4年生になっても一人で留守番をする、というのも難しいのではないかと思う。そこで、子どもの居場所がそういった4年生以上の子が行けるようなところになればよいと期待している。

話は変わるが、子ども同士のトラブルがあったような場合に親同士が普段から関わりを持っていればそれほど大きな問題とはならない。大人も面倒がらずに普段から関わりを持つようにすべきである。

また、子どもの自立性という面からいうと、最近の子どもは一人でも楽しく遊べるためか、無理して子ども同士で遊ぼうとはしない。だからみんなでやれば色々できる、という経験がない。この辺りの問題の解決も居場所に期待したい。

委員： 私は幼稚園の保護者の代表として参加している。私の子どもは一人っ子だが、周囲に同世代の子どもがおらず危なくて外で遊べないので家においてテレビを見たりゲームをやったりするしかない状況である。なるべく自然の中で友達と遊ばせたいが、そうすると親もついていかなければならず、困難である。外で安心して遊ばせることができるとうい。働いている親のためには学童も必要だと思う。

私は子どもが幼稚園に入る前までタイにいたが、タイと日本の子育てに対する周囲の人々の対応のギャップに驚いた。例えば、タイでは子どもに電車の座席を譲ってくれるし、ベビーカーが倒れてしまったときにも周りの人が起こしてくれるが、日本ではそういったことが期待できないのだと感じた。

委員：私は小学生のサッカーチームの監督をやっていたことがある。その立場からすると、自然があったとしてもボールを投げたり蹴ったりできる場所がない。こういうときにはやはり学校を使うことになる。20年程前には地区ごとにサッカーチームのレベルの差が大きかった。これはサッカーの練習以外の部分で普段から動き回る場所があったかどうかということが大きな違いである。

居場所を考えていく上では学校、地域、家庭の連携が必要であると思う。サッカーチームも居場所になっていると思うが、そこから更につなげていければと思う。

委員：町田市に越してきて最初に感じたことは、町田市は子どもを大切にしていないということ。学校開放ということであってもスポーツのための団体開放はやっているのだが、文化的なものがなかった。そこで学校に対して働きかけを行っていったところ、自分で責任を持つなら、ということで子どもを中心とする活動を活発にすることができた。つまり、大人が動けば色々変えていけるということである。

日常活動においては大人がニコニコしていると子ども達が安心する。居場所というとき最初に思ったのは、今、街でやっている地域の活動をそのままこの会にもってこられれば、ということである。その延長線上にたぬき山がある。子どもと接する際の基本は温かく見守ることであると思う。このような会議で話しあえるのはとても素晴らしいことである。

学童に通っている子どもはいい。通っていない子どもの居場所がないので、そのフォローができればいいと思う。たぬき山のように地域の協力者が運営できるような場所がもっとあるといい。そして、そこには指導員を常駐させたい。放課後指導員、ボランティアだけでは続かない。続けていける環境作りを考えていくべき。そうすることによって子ども達も安心して遊べると思う。

委員：私は1歳児の父である。町田市に引っ越してきて3年になる。市の施設ということだと南大谷子どもクラブとひなた村を利用している。例えば南大谷子どもクラブのことでいうと、小学生が14:00~15:00くらいになると来る。その後で子どもを連れて行くと幼児スペースに小学生が飛び込んできて危険を感じることもある。また、遊具が少ないとも感じる。

個人的には子どもの居場所は子どもが身体的に健やかに成長できる場所、人間性を豊かにできる場所であるべきと思う。学校では集団生活の中で生活することと個性を発揮することの両面が求められるが、そのバランスをとれるような場所にしていきたい。

私が調べたところによると、川崎市では子どものいる場所は公共施設が2割であり、自宅が4割、習い事等が3割あるとのこと。自宅では身体の健やかな成長という点が難しいと思うが、それを補完できる公共施設が少ない。

最近では親の育児放棄に近いような状況と、その逆の場合があり、親の意識が偏りすぎているように感じる。本質的な原因は地域会議で聞いてみることによって分かるのかなと思う。

また、子どもの居場所としては障がい児も健常児も一緒に遊べるような場であることが望ましい。

委員： 「地域」とはどこなのか、まずその定義づけが難しいと思う。居場所の対象を全ての子どもと考えると学校ということになるが、学校だと子どもが構えてしまって自然体でいられないのではないか。家のことには介入できない部分があるので、地域の人々の協力が必要となる。大人の教育も必要である。

私の出身地の秋田では道ですれ違っただけでも挨拶をするが、東京ではそういったことがない。また、秋田では道路では危ないから遊ぶなと言われる。しかし、東京では道路しか遊ぶ場所がない子どもがいる。大人が他人に対して関心がないのであろうが、子どもがそれを見て育つと他人に対して関心を持てなくなるのではないか。

また、お母さん同士が相談できる場所が少ない。あってもなかなか周知されていない。そういうことを地域でやっている人がいるのだからその活動をそのまま持ち込めればよいのではないか。

居場所とは与えられるものではないと思うが、それを自分で見つけられない子どももいるので、最初はきっかけを与える必要があるのだと思う。家庭という場は子どもにとって必ずしもそこにいれば安心という場所ではなく心のよりどころは色々ある。地域で暖かく見守る大人の目が欲しい。

委員： 地域ごとに本当に特性は違うと思う。藤の台小学校では、校

庭の利用は学童が半分で、残りの半分はサッカー等のスポーツ活動である。そこに所属していない子どもは校庭を利用できないことになるのでそういうこどもの居場所が問題となる。学校に在る間はいいが、教育課程の変更で平成23年から授業数が増えるため、高学年はほとんど6時間授業となるため、3:45までが授業であり、その後子どもがどう過ごすかが問題である。

また、子どもが増えているので放課後に使うための空き教室が足りなくなっており、そのための場所の確保も課題となる。

委員：確かに子どもは増えているのに子どもの姿が見えなくなっている。私が子どもの頃一番楽しかったことといえばみちくさだが、今はみちくさもできない。子ども達のたまり場もない。みちくさ、たまり場を復活させたい。

学童に通っているこどもは全体の約4分の1であり、高学年は行けないのだからそれに代わるものが必要となる。

今は地域社会が崩れていることによって子ども達の置かれている環境が危機的な状況にある。集団の中でも個々でも輝ける子どもとなれるようにしたい。大人と子どものニーズは違う。また、地域のニーズといっても視点が違う。今あるものをいかに掘り返していくかということも重要となると思う。

座長：子どもはひなた村のような社会教育と学校教育、家庭教育の三つ巴で育てられていた。居場所は安全、安心が重要である。次回の懇談会に向けて、町田市という地域の中でどうあったらいいか、更にその中の地域ごとにどうあったらいいか、ということ論じていけたらいいと思う。

「そもそも子どもの居場所が本当に必要か？」という原点から地域性をふまえつつ次回の懇談会で意見をもらえれば、と思う。「もし子どもの居場所が必要だとすればどのようなものが必要か」、「現状の取り組みの充実でもよいのではないか」、といった点について地域会議で意見の収集をしてもらいたい。

#### 議題8 地域会議モデル地区候補について

座長：地域会議への参画の仕方について事務局より説明を。



事務局： 町田市を5つの地区に分け、15名の委員を3名ずつに分かれてグループワークをしていただく。地区の分け方については資料7のとおりである。次回の懇談会までに地区の担当委員を決定したい。どの地区を担当するかについては委員の方々のご希望を伺った上で調整させていただきたい。

地域会議の日程については、地域会議に参加する地域の方の予定、学校行事等との調整も必要となるので変更することもありうる。

次回の懇談会は9月19日である。

以 上